

週報

感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌 ウイルス	平成29年												平成30年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月 ~7日	1月 ~14日	1月 ~21日	1月 ~28日	2月 ~4日	2月 ~11日	2月 ~18日	2月 ~25日	3月 ~4日	3月 ~11日	3月 ~18日	3月 ~25日
カンピロバクター	61	68	80	122	83	118	142	87	98	161	109	84	7	8	10	12	11	10	5	13	11	14	11 (12)	10
病原性大腸菌	107	105	89	113	64	135	206	161	102	112	73	110	14	17	14	21	15	16	6	14	10	13	15 (19)	2
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
サルモネラ	0	1	7	11	10	13	18	29	9	12	16	3	0	0	2	1	0	0	0	1	1	0	0	0
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	11	12	15	9	21	32	17	24	24	9	12	2	3	2	7	3	3	2	3	2	2	2	1
黄色ブドウ球菌 MRSA	16	19	13	17	15	23	27	16	22	19	15	16	3	1	3	5	4	3	1	3	6	3	2	2
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	0	5	9	11	5	14	3	1	0	0	0	0	2	1	3	1	3	1	0	1
ロタウイルス	1	0	1	6	6	3	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	7	4	4	5	5
アデノウイルス	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	1	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	7	4	8	6	11	13	8	2	1	3	7	21	2	4	2	5	4	2	3	4	10	5	2	0

* () は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。
* その他の1件は、アエロモナスでした。

広島県感染症発生動向週報

平成30年第12週(3月19日~3月25日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	6	結核	6	1		2		1	1	1
三類	0	発生なし	0							
四類	2	レジオネラ症	2	1				1		
五類全数	10	アメーバ赤痢	1					1		
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1						1	
		後天性免疫不全症候群	1					1		
		侵襲性肺炎球菌感染症	1					1		
		梅毒	3					1	2	
		百日咳	3							3

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中市、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

広島県感染症情報センター 提供

定点・全数把握疾患週報【広島市】(第12週 3/19~3/25)

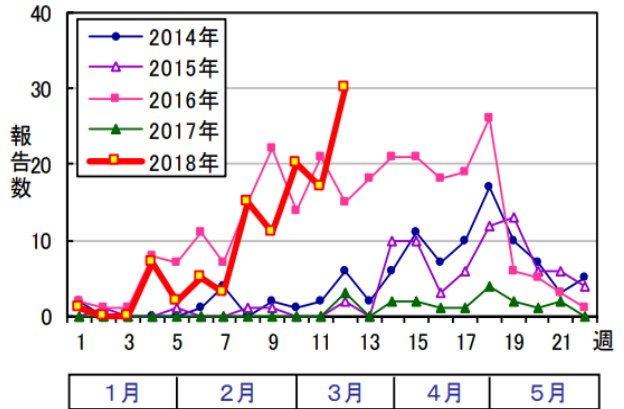
広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

1. 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)は、基幹定点から30人の報告があり、前週と比べて増加しました。また、市内の基幹病院2か所による迅速診断結果では、第12週は24人報告されています。

2月中旬以降増加しており、第11週にはロタウイルスを原因とする感染性胃腸炎の集団発生が1件報告されています。オムツや吐物の適切な処理、手洗いを徹底するなど、感染予防対策を心がけましょう。

基幹定点からの感染性胃腸炎(ロタウイルス)報告数



2. インフルエンザ

定点当たり4.27人の報告があり、前週と比べて減少しました。流行は終息傾向にあります。引き続き、手洗いや咳エチケットの励行など感染予防対策を心がけましょう。

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間(注)	発生記号
フィリ	インフルエンザ	158	4.27	8.20	▲	小児科	流行性耳下腺炎	3	0.13	0.46	
小児科	咽頭結膜熱	8	0.33	0.46		眼科	RSウイルス感染症	14	0.58	0.10	□
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	54	2.25	2.26	□		急性出血性結膜炎	-	-	0.05	
	感染性胃腸炎	219	9.13	7.34	▲	基幹	流行性角結膜炎	3	0.38	0.38	
	水痘	4	0.17	0.60			細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	2	0.08	0.29			無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	-	-	0.13			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.03	
	突発性発しん	8	0.33	0.28			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	-	-	0.04			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	30	4.29		▲

急増減	▲	▲	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	▲	▲	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	▲	▲	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	□	□	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	33	男性(80歳代)
4	レジオネラ症	1	1	男性(60歳代)
5	アメーバ赤痢	1	2	女性(30歳代)
5	後天性免疫不全症候群	1	3	男性(20歳代)・感染者
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	4	男性(60歳代)
5	梅毒	1	25	男性(50歳代)

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
インフルエンザ	インフルエンザ様症状	3	男	2018/02/13	鼻汁	インフルエンザウイルスA(H1N1)2009型
インフルエンザ	発熱(38.6) 鼻炎	2	女	2018/02/14	鼻汁	インフルエンザウイルスA(H1N1)2009型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載